

8月10日(火曜日)

ドル/円

日米の金融政策が大きく注目される

9日(月)の主な推移

チャート: 30分足 9日(月)朝7時 ~ 10日(火)朝6時

NYダウ平均

10698.75ドル
(+45.19ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.8307%
(+0.0106%)

NY原油先物

81.48ドル
(+0.78ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 前週末の米7月雇用統計にて米国の雇用の回復が進んでいないことが示され、ドル/円は安く始まった。その後、野田財務相から「為替相場の動向をさらに注意深く見ていく」など円高けん制発言が出たことや、仲値決済に向けたドル買い・円売りが出たことに加え、寄り付きで100円以上下げた日経平均株価が下げ渋ったことを手掛かりに、ドル/円はドル安・円高の流れが一服し、緩やかながら反発した。
- ② 時間外のNYダウ平均先物が上昇したことを手掛かりに、ドル/円は一時85.74円まで上昇した。
- ③ NYダウ平均が堅調に推移し、一時5月18日以来となる10700ドルを回復したことや、8月9~10日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果を意識したポジション調整のドル買い戻しが出たことも手掛かりとなり、ドル/円は85.90円まで反発した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 85.30- 86.50円

本日、米連邦公開市場委員会(FOMC)の政策金利発表が予定されている。市場では先週末の米7月雇用統計にて雇用の回復が鈍いことが示されたことで、金融緩和を催促する相場展開となっている。為替市場ではその動きは目立たないが、株式や金利市場では早くも金融緩和を期待する動きが見られ、昨日NYダウ平均は約3カ月ぶり高値に達し、先週末に過去最低を記録した米2年債利回りも反発している。

またはアジア時間には日銀金融政策決定会合が予定されており、こちらにも同様の金融緩和に対する思惑が高まっている。仮に米国が金融緩和を行い、日本が行わなかった場合、昨年11月のようにロンドン銀行間取引金利(LIBOR)での日米の6か月物の短期金利が逆転することにより、円高圧力がかかる展開も考えられることから、その結果に注視したい。しかし日米ともに金融緩和に踏み切った場合、株価の上昇によりクロス円と共にドル/円が上昇することも考えられる。

今回は白川総裁の会見直前に、菅首相の会見も予定されている。これは単なる偶然かもしれないが、念のため注意しておきたい。もし首相が円高デフレ阻止に言及した場合、政府と日銀が一体となった政策を打ち出せるのか、市場の関心を集めると見られる。(川畑)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/10(火)	未定	◎	(日) 日銀金融政策決定会合(9日～発表)	0.10%	0.10%
	15:00	◎	(日) 菅首相会見	—	—
	15:30	◎	(日) 白川日銀総裁会見	—	—
	23:00		(米) 6月卸売在庫 [前月比]	+0.5%	+0.4%
	26:00	○	(米) 3年債入札(340億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00~0.25%	0.00~0.25%

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com